

中間まとめ（案）の記載内容と協議内容（委員の意見）の対照表

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>はじめに</p> <p>広島県における今後の高等学校教育の在り方について、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方」, 「本県における今後の高等学校の在り方」の2つの事項について明らかにするよう諮問を受けた。</p> <p>これまでの6回の会議において、協議を行った内容をここにとりまとめ、中間まとめとして報告する。</p> <p>I 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について</p> <p>1 検討に当たって</p> <p>(1) 広島県の特徴など</p> <p>広島県は、豊かな自然、西日本有数の産業集積地、国際都市としての潜在的な魅力を有している一方で、中山間地域等における過疎化等の課題を抱えている。</p> <p>こうした状況下において、様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材の育成が急務となっている。</p>	<p>本検討協議会は、平成24年4月26日、広島県における今後の高等学校教育の在り方について、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について」及び「本県における今後の高等学校の在り方について」の2つの事項について明らかにするよう諮問を受けた。</p> <p>検討協議会では、平成22年10月に策定された「ひろしま未来チャレンジビジョン」を踏まえ、本県の特徴、高校生や若者の現状、高等学校の設置状況、本県高等学校の取組などを検証しながら、本県における今後の高等学校教育の在り方について6回の会議を開催し、協議を行った。</p> <p>このうち第1回から第3回までの会議においては、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方」をテーマに本県を内外から支える人材とはどんな人材か、生徒が高等学校で身に付けるべき力は何かなど、高等学校教育の目指す姿について協議を行った。</p> <p>また第4回から第5回までの会議においては、「本県における今後の高等学校の在り方」をテーマに今後求められる高等学校、国・公・私立高等学校の役割について協議を行った。</p> <p>ここに、これまでの協議内容をとりまとめ、「中間まとめ」として報告するものである。なお、今後、さらに協議の上、「答申」を取りまとめる予定である。</p> <p>I 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について</p> <p>1 検討に当たって</p> <p>検討に当たり、広島県の特徴や若者、高校生の現状等について確認を行った。委員から出された主な意見は次のとおりである。</p> <p>(1) 広島県の特徴など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国山地や瀬戸内海など豊かで美しい自然に囲まれている。 ・西日本有数の産業の集積地である。 ・全国47都道府県の内第5位の国宝建造物数を誇り、神楽、茅の輪くぐり、花田植など、地域の文化的な遺産も非常にたくさんある。 ・「広島」の名は、海外にもよく知られ、海外から多くの観光客が訪れるなど国際都市としての潜在的な魅力を持っている。 ・全県的な少子化の問題を抱え、特に中山間地や島嶼部において過疎化の進行、医師の偏在など課題を抱えている。 <p>こうした状況下において、様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材の育成が急務となっている。</p>	<p>●広島というところは、非常に自然が美しく、それから経済的な産業の集積もありまして、それから文化も非常にたくさんございます。若い人たちが、そのことを必ずしもよく知ってなくて、文化があるというのは、例えば国宝建造物の数が、全国47都道府県で5位なんですね。</p> <p>●広島の名前は海外に行っても非常によく知られているということは、私も前の委員様方と同じく、郷土の文化について英語ないし、あるいは近隣の外国語で語れる。そして被爆のことだけではなくて、現在の広島について各分野で語れるということが非常に大事なのではないかなと思います。</p> <p>●中山間地や島の活性化という大きな課題になってくるというように思います。そうした意味で、第1次産業に付加価値をどうつけていくかということ、これからの広島県を考える上で大事なことで、いかにそれを企業化していく人材が必要かというように思います。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>(2) 若者，高校生の現状</p> <p>現在の若者，高校生について，素直である，社会に貢献したい気持ちが強い，あるいは情報収集能力が高いなど多くの点で評価できる。</p> <p>しかし，議論や競争が苦手，他者と協同して課題を解決するのが苦手，あるいは実現したい夢を持っていないなどの課題がある。</p>	<p>(2) 若者，高校生の現状</p> <p>現在の若者，高校生については，素直である，社会に貢献したい気持ちが強い，あるいは情報収集能力が高いなど，多くの点で評価できるといった意見が出された。</p> <p>【評価できるとした意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直，やさしい ・和を大切にする ・スマート ・指示されたことは確実に実行する ・情報収集能力が高い ・情報機器を活用でき，プレゼンテーション能力が高い <ul style="list-style-type: none"> ・社会に貢献したいという気持ちが強い <ul style="list-style-type: none"> ・やる気になると素晴らしい行動力を発揮する <ul style="list-style-type: none"> ・新しい感性を持っている <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域では，地元の伝統芸能を守りながら地域の人たちと繋がりを持って頑張っている。 <p>しかし，一方で，議論や競争が苦手である，他者と協同して課題を解決するのが苦手である，あるいは実現したい夢を持っていないなどの課題がある。また，打ち込めるものを見つけ熱心に取り組む者と，興味を持てるものが見つからず楽しければよいと考える者との二極化しているという意見も出された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●非常に素直で優しい，スマートな人が多い。言われたことはしっかり守ろうとする，和を重んじる，空気を乱さない，情報収集が得意。 ●素直で従順である。非常に指示によく従う。 ●情報を収集する力，それを処理する力，それを発信する力がある。すごいアイデアも持っている。 ●技術革新が進む中，電子機器に対応していく力と，ブログ，ツイッターなど対話メディアを活用して，自分の情報発信していく力，はあると思う。また，高校生が行った修学旅行の学習成果発表では，プレゼンテーション能力とか表現力はあったと思う。 ●社会に貢献したいという意欲は持っていると感じる。いろんなクラブ活動，授業の中で身に付けた能力を地域で発揮していく中で，生徒の目が輝いているし，地域の人から拍手とか声をかけられて，それが自信につながっている。それが，また一つのことに打ち込むことの原動力につながっていると感じる。 ●目標を持ったときに，本当に勉強も頑張るし，あるいは何かになろうと思えば，サポートやアドバイスを求めている人々に会いに行ったりして，その中でコミュニケーションの力も育つというようなことがある。 ●体を使ってとか，外へ出てとか，何かその場でアクティブラーニングといいますが，積極的に，単に受動的な学習でないものに非常に興味を覚えている。 ●我々の時代と違った新しい豊かな感性を持っているという気がしている。例えば，ビジュアルなものに対する感じ方，音感にしても，我々の少年時代には，例えばバイオリンやピアノの世界大会で優勝する者はいなかったが，今は続出している。この感性が，新しい時代を生み出すのではないかと期待している。 ●中山間地域，あるいは島嶼部でやっている中で，一つの取り組みは，神楽甲子園とかというふうな，地元の伝統芸能を守りながら，地域の人たちとつながりを持って頑張っている。 <ul style="list-style-type: none"> ●並木通りを12時，1時ごろに騒いで，5時，6時に始発電車に乗って集団で帰っていく。ところが，片一方のほうでは，地域の文化の伝承としての神楽で燃えている学生もいる。広島には，そういう2つのセグメントがある。並木通りのその若者たちが，なぜ問題があるのかということ，興味を持てるものがないということである。 ●非常に熱心にいろんなものに取り組む学生もあれば，ある意味で，投げやりで，毎日楽しく過ごせればよいという学生，あるいは高校生もいる。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
	<p>【課題であるとした意見】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議論や競争が苦手 ・ 課題解決の体験が不足，じっくり考えることが苦手 ・ 物事の一面しか見ない，理解しようとしめない（全体を見通す洞察力に欠ける） ・ かく在るべきという建前の意識がない ・ 多様な情報を比較検討して判断することが弱い ・ 人間関係づくりの体験が不足 ・ シャイ（恥ずかしがり）な面を持っている ・ 他者と協同して課題を解決するのが苦手 ・ 叱られるとすぐに落ち込む ・ 挫折から立ち直る術を知らない ・ 本当に実現したい夢を持っていない ・ 国，郷土，母校を愛する意識が薄い </div> <p>これらの意見は，各委員の経験から感じられる若者，高校生の傾向について示したものであり，言うまでもなく，全ての若者や高校生に同様であるわけではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 議論・競争に関して，余り慣れていない。 ● 外国人学生が，最近非常に増えており，順番に見ていくと，その中に少し埋没してしまう。少しおとなしい。 ● 県下でもトップクラスの学力だろうというふうに認知されているような生徒であっても，例えば，北京師範大学の付属の高校生とお互いに英語でディベートさせたら，もう全く歯が立たないという状況がある。 ● 自分から考えて行動して動くことはできない。課題，問題を解決していく力に少し弱さがある。 ● 問題の課題解決学習といわれるような実習体験とか，しっかりと座学で，一人で黙って勉強するということが余り得意としていない。 ● 一を聞いて十を知るといことがあるが，一を聞いたなら，一という形で終わってしまう子どもが，随分多くなった。 ● 安定を求めてチャレンジをしない，あるいは自分自身で考える力がないという傾向がある。 ● 私どもの高校生のときのように，かくあるべきだというような，建前というような意識が少ない。 ● 偏った情報をうのみにして行動してしまう，限られた情報のみで判断して行動してしまう。だから，多様な情報を比較検討して判断する部分はちょっと弱い部分があると感じる。 ● 人間関係づくりの体験が希薄。 ● 自分のことだけを考えるのではなく，周りの人たちが何を望んでいるかを図ってほしい。また，それを態度に示してほしい。一緒に協力してやっていくという姿勢を身に付けてほしい。 ● ALTが，日本の中学生は，非常にシャイで，多少英文の文法的に間違っているけど，あれこれ話をするということがない，と異口同音に言っている。 ● コミュニケーション能力の点で，子どもたちが会話をし，どう取り組み，解決していくかという力が，低下している。 ● 注意をされたりしかられたりしたときには，落ち込んでしまうなど心の弱さが見える。 ● 自律性が欠如している。それと，心が弱くなってきている。挫折の経験がない，あるいは挫折をしたときに立ち直るすべを知らないという生徒が増えてきたと感じる。 ● 本当に甘え切っている子たちもいる。 ● 夢の持ち方について，単なる夢という程度のことしか持てないような生徒も増えて，将来社会に出てどうするんだということをきちんと考える生徒が減ってきた。 ● 広島は，非常に自然が美しく，それから経済的な産業の集積もあり，それから文化も非常にたくさんあるが，若い人たちが，そのことを必ずしもよく知っていない。 ● 今，海外で活躍されている人に，国家意識が余りにも薄いと感じる。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>2 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について</p> <p>(1) 本県を内外から支える人材</p> <p>本県を内外から支える人材を、本県を内側から支える人材と外側から支える人材の大きく二つの視点から整理した。</p>	<p>2 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について</p> <p>(1) 本県を内外から支える人材</p> <p>はじめに、本協議会では、平成 22 年 10 月に策定された「ひろしま未来チャレンジビジョン」の人づくりの分野において掲げられた「本県を内外から支える人材」について、具体的にどのような人材であるのかを、先に整理した本県の特徴や若者、高校生の現状を踏まえ、協議を行った。</p> <p>委員から出された主な意見は次のとおりである。</p> <p>【本県を支える人材のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土の文化を知り、品性、産業界で活躍ができる力を身に付け、広島県から世界に発信できる人材 ・ グローバル化に対応できる人材 ・ 科学、文化、スポーツなどの特定の分野に秀でた力を有する人材 ・ 第一次産業に付加価値をつけ企業化していく人材 ・ 社会に貢献できる人材 <p>これらの意見を集約し、本県を内外から支える人材を、本県を内側から支える人材と外側から支える人材の大きく二つの視点に分けて、次のように整理した。</p> <p>ア 内側から支える人材</p> <p>本県を内側から支える人材とは、本県の強みの一つであるものづくりをはじめとする様々な産業に携わり、科学や技術に関する高い知識や技能を持って本県産業の発展を支える人材、技術と熱意を持って地域の医療を支えるなど県民の安心な暮らしを支える人材、地域の活動に積極的に参加し、地域が抱える課題の解決に取り組むなど、豊かな地域づくりに貢献する人材などであり、言い換えると「地域」で活躍する人材である。</p> <p>イ 外側から支える人材</p> <p>本県を外側から支える人材とは、グローバル化が進展する中で主体的にものを考え、行動する力を持ち、県外のみならず、国外において、産業はもとより、文化、スポーツ、科学など様々な分野において活躍する人材である。</p> <p>こうした人たちの活躍は、子どもたちをはじめ、本県に暮らす人々に夢や希望を与え未来への新たな活力に繋がっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 経済的な活躍ができる力をつけるとともに、郷土の文化、日本の文化がきちっとわかっている、そして品性のある人間に育ってほしい。広島から世界に向かって文化を発信してほしい。 ● 郷土の文化について英語、あるいは近隣の外国語で語れる。そして被爆のことだけではなく、現在の広島について各分野で語れるということが非常に大事である。 ● グローバル化の中で、国際競争力というものが必要であると、大学でも感じているが、今、学生を見ていて、留学生のほうが、はるかに力があると、感じる人が多い。 ● 科学、文化、スポーツなどのどれか特定の分野で秀でた能力、知識、技能などを有した人材が欲しい。その能力等を地域の文化活動、学校教育で色々と還元できる人材が大事だと思う。 ● 中山間地や島の活性化が大きな課題になってくると思う。その意味で、第1次産業に付加価値をどうつけていくかということは、これからの広島県を考える上で大事なことで、それを企業化していく人材が必要である。 ● 将来、町を出て都市部で就職しても、長い時期を考えれば、ふるさとへ帰ってくるような子どもを育てる必要がある。 ● 自分自身のために、人のために、あるいは地元のために頑張れる人間をつくらせていきたい。まさに、社会に出て貢献できる、活躍できる人間を育てていきたい。 ● 愛国心、会社を愛して、学校を愛する、自分の出た学校をまた訪れたいというような人材を育てていく必要がある。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>(2) 生徒が高等学校で身に付けるべき力</p> <p>高等学校においては、社会的に自立する上で求められる普遍的な力を卒業までに身に付けさせることが必要であるとともに、生徒個々が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力を付けることも重要である。</p>	<p>(2) 生徒が高等学校で身に付けるべき力</p> <p>次に、本県を内外から支える人材についての議論を踏まえ、生徒が高等学校で身に付けるべき力について協議した。</p> <p>協議の中で、中学校卒業者の約 98%が高等学校へ進学するとともに、高校卒業者の約 58%は大学、短期大学へ進学、約 23%は専修学校などへ入学、約 13%は就職するという現状（平成 24 年公立学校基本数）を踏まえると、高等学校には、人格の基礎となるものを完成させるという役割と、上級学校に進学するための基礎、または社会に出て就職するための基礎を身に付けさせるという役割があるとの意見があった。</p> <p>このため、高等学校においては、社会的に自立する上で求められる普遍的な力を卒業までに身に付けさせることが必要である。また、それに加えて生徒個々が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力を付けることも重要であることから、生徒が高等学校で身に付けるべき力を全ての高校生が身に付けるべき力と、生徒が個々の状況に応じて社会で活躍できるように身に付けるべき力の 2つにまとめたものに基づき、協議を行い、次のように整理した。</p> <p>ア 全ての高校生が身に付けるべき力</p> <p>社会的に自立する上で求められる普遍的な力とは、知・徳・体のバランスのとれた力（「生きる力」）とすることができるが、具体的なイメージとして、例えば、基礎学力を身に付け、変化に対応し、自ら主体的に考え、判断し、行動できる力や、自己を確立するとともに自分以外の他者を受容し共生できる力等として捉えることができる力である。</p> <p>【委員から出された主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力（外国語の力も含む）が重要である ・生涯を通じて学ぶ意欲・態度が重要である ・社会に貢献しようとする態度が重要である ・自己の確立が重要である ・環境の変化に対応し、自分以外の他者を受容し、共生できる能力・態度が重要である ・自ら考え、意見を発信し、行動できる能力・態度が重要である 	<ul style="list-style-type: none"> ●今は、98%高校進学するという世の中で、その子たちを対象にした教育のあり方については、県内どこにいても、日常的なグローバル社会に対応ができる大人にしていくためにどうしたらいいかという観点と、国際社会で活躍できるというようなものをイメージした教育のあり方と 2つあると思う。 ●高等学校でやるべきことというのは、一つは大学へ進学するための通過点、即ち大学で勉強するための基礎を身に付ける。 ●人格の基本みたいなものは、高等学校くらいまでで殆どできてしまっている。 ●国公立、県内高等学校として、普遍的に身に付けるべきグローバル資質能力、対応力も必要でしょうし、そこから飛び出して、自分自身がグローバルに活躍していく力を付けることも必要 ●基礎的、基本的知識・技術の習得と、これらを活用して課題解決するための思考力、判断力、表現力などを育成すること、そして、これらのことに主体的に取り組む態度を身に付けるという、生きる力を付けることをやっていくべきだと思う。さらに、それらを身に付けるための土台となる人間性も必要である。 ●子どもたちには、総合的な力、よく言われる知・徳・体の高いレベルでのバランスをつける必要があると思う。そういうものが、環境の変化に耐え得る力につながる。 <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな力をつけなければならないが、特に、学力についても、根気強く取り組んでいくことが必要である。 ●生涯学習の視点からは、学校を卒業したらもう勉強しないという人が出てほしいのではなく、一生学び続けようという人がほしい。 ●やりたいことだけを考えるだけでなく、社会が求めていることをしっかり考えて、そして自分ができることをしっかりと固めてもらいたい。 ●強い心。アイデンティティー、郷土愛、母国愛、それから自分自身の力に対する自信である。かつ失敗を恐れないということ、競争心、国際的なビジネスの場で、勝ちにいくという気持ちを身に付けてほしい。 ●環境の変化に対応できる人間も育てたい。 ●他者と共同する力や、他者の持っている能力を結びつけて組織的なものにしていく、リーダー性みたいなものも大事。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）																				
	<p>イ （高校生が個々の状況に応じて）社会で活躍できるために身に付けるべき力</p> <p>生徒個々が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力とは、例えば、科学、ものづくり、文化、スポーツなど特定の分野に秀でた能力、知識や技能、あるいは困難な課題に直面したときに、意欲的に、粘り強く取り組む力や態度、リーダーシップを発揮し他者の力を生かすことのできる力などである。</p> <p>【委員から出された主な意見】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の分野における一流の技（力）を極めるために必要な知識、技能 ・ 特定の分野における一流の技（力）を極めるために、意欲的に、粘り強く取り組む力や態度 </div> <p>【参考】</p> <p>① 生きる力（平成20年1月17日中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力 ・ 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性 ・ たくましく生きるための健康や体力など <p>② 国際バカロレアの学習者像（文部科学省ホームページ「国際バカロレアについて」）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>Inquirers</td><td>探究する人</td></tr> <tr><td>Knowledgeable</td><td>知識のある人</td></tr> <tr><td>Thinkers</td><td>考える人</td></tr> <tr><td>Communicators</td><td>コミュニケーションができる人</td></tr> <tr><td>Principled</td><td>信念のある人</td></tr> <tr><td>Open-minded</td><td>心を開く人</td></tr> <tr><td>Caring</td><td>思いやりのある人</td></tr> <tr><td>Risk-takers</td><td>挑戦する人</td></tr> <tr><td>Balanced</td><td>バランスのとれた人</td></tr> <tr><td>Reflective</td><td>振り返りができる人</td></tr> </table> <p>（注）国際バカロレア：インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と、国際理解教育の促進に資することを目的として1968年に国際バカロレア機構が発足した。国際バカロレア機構は、スイスのジュネーブに本部を置き、認定校に対する共通カリキュラムの作成や国際バカロレア試験の実施及び国際バカロレア資格の授与などを行っている。国際バカロレアには、3歳～19歳の子どもの年齢に応じて3つのプログラムがある。</p>	Inquirers	探究する人	Knowledgeable	知識のある人	Thinkers	考える人	Communicators	コミュニケーションができる人	Principled	信念のある人	Open-minded	心を開く人	Caring	思いやりのある人	Risk-takers	挑戦する人	Balanced	バランスのとれた人	Reflective	振り返りができる人	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会に出ると、答えがないことに対して、自分で答えを出していかなければならないと思う、そういった力が身に付けられると、グローバルな競争の中で戦っていける、結果を出していける人材になると思う。 ● グローバル化に通ずる相手を認め、相手の力を生かしていける人というのがあると思う。 ● 彼（教え子）が、バンコクとか中国に行っているが、英語が不得手だったので、知っている言葉や理科に関する英語単語だけでしゃべっている。彼は、自分が向こうで技術をどう使いたいかという思いを出せば、全部通じると言う。一芸に秀でることは力になると思う。 ● 自分自身がどうなりたいという目指す姿や在りたい姿に対して、やはり一生懸命その像を求めて、追い求めて行動している人がリーダーシップであり、あるいはグローバル化をつくり上げるだろうし、また地域というものをくり上げていくと思う。 ● 一流の芸を極めるための基礎というところで。基本的に、まず、私の周囲を見回してみても、専門性を持った、例えばデザイナーや、カメラマンや、ライターや、プランナーやという人たちが、あるいは起業家を見たときに、いつまでも没頭して、それに集中してできるというところも、まず、マインド的な自分の意欲というところが、とても将来的に必要となってくる。
Inquirers	探究する人																					
Knowledgeable	知識のある人																					
Thinkers	考える人																					
Communicators	コミュニケーションができる人																					
Principled	信念のある人																					
Open-minded	心を開く人																					
Caring	思いやりのある人																					
Risk-takers	挑戦する人																					
Balanced	バランスのとれた人																					
Reflective	振り返りができる人																					

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>(3) 高等学校教育が目指す姿</p> <p>高等学校教育においては、生徒が将来社会で自立して生活を送ることができるために必要な心身の強さや人間性を養うという観点と生徒の進路希望の実現を図るという観点が重要である。</p> <p>いずれの観点においても、生徒に夢と学ぶ意欲を持たせ、学びを实践させることにより、成功体験を積み上げるとともに学ぶ意義に気づかせ、さらに学ぶ意欲を強めるという好循環を作り上げることが必要である。</p>	<p>(3) 高等学校教育が目指す姿</p> <p>続いて、(1) 本県を内外から支える人材及び(2) 生徒が高等学校で身に付けるべき力の議論を踏まえ、高校生が高等学校において身に付けるべき力を育成し、将来、本県を内外から支える人材となるために、高等学校教育が目指すべき姿について協議した。</p> <p>委員から出された主な意見は次のとおり。</p> <p>【学校教育が目指すべき姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養の基礎的な部分を習得させることによって、高等教育などへ繋げる ・目の前の地域の職業、産業に目を向けることによって、目標となる職業を見出す ・基礎的・基本的な力（学力）をきちんとつけることによって、将来何かに挑戦するときの基盤を培う ・社会や他者との繋がりを意識できる機会を設けることによって、自己肯定感を育む ・本物や一流のものに触れる機会を設けることによって、夢や意欲を持たせる（スイッチを入れる） ・スポーツや芸術などを通じた人間づくりを行うことによって、心身の強さや人間性を養う <p>こうしたことから、本県を内外から支える人材及び生徒が高等学校で身に付けるべき力について、これまでの議論を踏まえ、本協議会では、高等学校教育の目指すべき姿を次のとおり整理した。</p> <p>高等学校教育においては、生徒が将来社会で自立して生活を送ることができるために必要な心身の強さや人間性を養うという観点が重要である。また、生徒の進路希望の実現を図るという観点も重要である。</p> <p>大学などへの進学を希望する生徒に対しては、基礎基本を確実に身に付けさせ、大学など高等教育機関への円滑な接続を図ることが求められている。また、高等学校卒業後、直ちに就職することを希望する生徒に対しては、基礎的・基本的な職業に関する知識・技能などを身に付けさせ、将来、産業界で活躍できるような人材を育成することが求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な教養と申しますか、好奇心、いろんな心構え、バックボーンとなる基礎の教養というのが要る。日本文学の基本的なものとか、歴史とか、そういう基礎教養をきちっとつけさせていかないと困ったことになる。 ●いわゆる専門的な教育を受ける学校は減ってきた中で、皆、普通科というような状況になってきて、その中で育ってきた者が、将来何するかというときに、普通のという感覚でしかなくなっている。具体的に自分の目の前の地域の職業であるとか、産業に目が向けられないような状況がある。一般教養をしっかりと持った上で、自分たちが、地域の産業やいろんなものに対して具体的な目標を持てるようなことが必要である。 ●基礎となる力というこの能力さえしっかりつけてやれば、それは、必要なスキルというのは、それぞれ必要が出てきたときに、比較的短期間に身につけることができる。 ●自己肯定感とか、自己効力感とか、やはり自分が何かできるとか、仲間と何かができるとか、社会を変えることができるとか、そういうことが非常に日本の子どもたちは弱い。そういうものをはぐくむための教育課程、そういうようなものを何かうまく仕組みとしてつくっていただけないか。 ●例えば、著名な各界で活躍している先輩の音楽家を呼んでくるとか、世界的に活躍している人、あるいは先生方、いい先生に恵まれるとか、そういう人たちにやっていることの大事さを気づかさせてもらわないといけない。自分から勉強しようと思うスイッチが入らないことには、どうしてもいい学びができない。大多数のなかなか勉強に臨めない人たちのやる気を、スイッチ入れるためには、指導者、あるいは各界の先輩との接点というのが要る。 ●小さな成功体験を積み重ねていくことが、一つの夢の実現につながっていく。小さな挫折を一つ一つ乗り越える体験は大切。その意味でもスポーツとかは多いに役立つ。スポーツを一生懸命できる子どもたちは、やはり授業中、きちっと席に着いて勉強できるというふうにつながってくる。 ●人格の基本みたいなものは、高等学校くらいまでで殆どできてしまっている。 ●基礎基本をきちんとつけて、次のステージのときにきちんと活躍できる人間を育てていくことは、大きな使命だろうと思っています。 ●高等学校でやるべきことというのは、一つは大学へ進学するための通過点、即ち大学で勉強するための基礎を身に付ける。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
	<p>こうした生徒に心身の強さや人間性を養うという観点、生徒の進路希望の実現を図るとい う観点のいずれにおいても、生徒に夢と学ぶ意欲を持たせ、学びを实践させることにより、 成功体験を積み上げるとともに学ぶ意義に気づかせ、さらに学ぶ意欲を強めるという好循環 を作り上げることが必要である。</p> <p>なお、こうした高等学校教育の目指すべき姿を実現するに当たり、次のような取組が重要で あるとの指摘があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や他者との関わりを通して自己肯定感を育む取組が重要である。 また、生徒に夢や意欲を持たせるために、各界で活躍している人やその人の持っている技 術に生徒を触れさせるなどの機会を設けることも重要である。 ・文化・スポーツや理数系などの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから 夢や目標を見つけるなど、生徒個々の多様なニーズに適切に対応するために、各高等学 校が特色ある教育を更に推進することも求められる。 また、中途退学をする生徒や不登校傾向のある生徒が持っている可能性を引き出して能 力を伸ばすなど、様々な困難を持ちながら勉強している子どもたちを支えるという観点 も大切である。 なお、特色ある教育については、教育課程上の制度と内容における特色化、部活動におけ る特色化などを図る必要があり、それらを進めるに当たっては、地域事情など各校の状況 を考慮して行うべきである。 	<p>●本物、あるいは一流のものと接すること。高校の学校内に限らずに、外での接 触、あるいは実社会、企業、そういったところといるんなパイプを持って、学 ぶことの意味づけを少しでも生徒たちが感じられるようにしてやること。</p> <p>●どうやって意欲とかモチベーションを高めていくかというふうな話もあったか と思いますが、子どもたちって、自分のやっていることが、こういう場面で役 に立っているんだとかいうのが実感してわかったときには、それが意欲につな がる。</p> <p>●クラブ活動や授業の中で身につけた能力を地域で発揮をしていく。その中で、 生徒の目が輝いているし、地域の人からいろんな拍手とか声をかけられて自信 がつながる、さらに、それが、また一つのことに打ち込むことの原動力につな がっているという、そういった社会に貢献したいという意欲は感じます。</p> <p>●学校の中だけではなく、社会の組織とかかわるチャンス、場をつくることが必 要ではないか。そうすると、学校とは違った評価の視点があり、社会とかかわ った場面で認められたことが、本人の自己肯定感を強くしていくことにつな がっていくのではないかと思う。社会との関わりを増やすとよい。</p> <p>●例えば、著名な各界で活躍している先輩の音楽家を呼んでくるとか、世界的に 活躍している人、あるいは先生方、いい先生に恵まれるとか、そういう人た ちにやっていることの大事さを気づかさせてもらわないといけな。自分から勉 強しようと思うスイッチが入らないことには、どうしてもいい学びができな い。大多数のなかなか勉強に臨めない人たちのやる気を、スイッチ入れるた めには、指導者、あるいは各界の先輩との接点というのが要る。</p> <p>●基礎となる力の（B）のほう、社会で活躍するために身につけるべき力とい うのは、高等学校側で、ある程度特別な場面や発表の機会を用意するなどの工 夫が必要ではないか。そういう意味では、各学校が、地域の実態に合わせて特 色づくりをより一層進めていく必要があると思う。</p> <p>●いろんな困難を持ちながら勉強している子どもたちを支えるという観点は、絶 対県内高校の役割だろうと思う。</p> <p>●国策としてのカリキュラムや指導法の研究開発などを行うSSHのような理数 教育、科学技術教育に力を入れていくものと、文化・スポーツと同じように、 それぞれの学校の人材育成目標に沿った形での特色教育として、理科や数学な どに力を入れて教育をするといったものは大いにありだと思ふ。</p> <p>●課外の、学校行事等ですね、そんな中に特色を出していくということがあるの ではないかなと思う。</p> <p>●思い切っているんな特色ある学科を都市部ではどんどんやってもいいのではな いか。スポーツとか芸術とかは、単独校を作るぐらいの気持ちがあってもいい のではないかな。私立学校も国立もあるわけですし。中山間地域と都市部と高校 には、それぞれのやり方があるという考え方で進めていくべきだと思ふ。</p> <p>●そういう高等学校の特色づくりの中に、いかに地域の特性とといいますか、それ を結びつけていくか、そこが大事なのではないかな。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>Ⅱ 本県における今後の高等学校の在り方について</p> <p>1 今後、求められる高等学校</p> <p>(1) 基礎・基本の力（コア）を育成する学校</p> <p>グローバル化の進展など、激しく変化していく社会で活躍できる人材を育成するためには、全ての高等学校において、基礎的な学力、思考力、判断力、行動力及び自分以外の他者を受容し共生できる力のもとより、各々の職業で必要とされる基礎的な専門知識や技能などを身に付けさせる必要がある。</p> <p>また、生徒に学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、将来への目的意識を持たせ、将来の夢の実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育成することが重要である。</p> <p>(2) 生徒の多様なニーズに対応する学校</p> <p>文化・スポーツや理数系などの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒の多様なニーズに適切に対応するためには、各高等学校が特色ある教育を更に推進することが求められる。</p>	<p>Ⅱ 本県における今後の高等学校の在り方について</p> <p>1 今後、求められる高等学校</p> <p>これまでの高等学校教育の目指す姿についての協議を踏まえて、今後の高等学校の在り方について協議を行った。</p> <p>まず始めに、今後求められる高等学校について、社会的自立のために必要な力の育成と生徒個々の多様なニーズへの対応が必要であるという観点から、次のとおり整理した。</p> <p>(1) 基礎・基本の力（コア）を育成する学校</p> <p>グローバル化の進展など、激しく変化していく社会で活躍できる人材を育成するためには、全ての高等学校において、基礎的な学力、思考力、判断力、行動力及び自分以外の他者を受容し共生できる力のもとより、各々の職業で必要とされる基礎的な専門知識や技能などを身に付けさせる必要がある。</p> <p>また、生徒に学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、将来への目的意識を持たせ、将来の夢の実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育成することが重要である。</p> <p>こうした基礎・基本の力（コア）を身に付けさせるためには、学習活動や部活動、学校行事などを通じて、生徒の努力や成果を発表する機会を確保することにより、自己肯定感を高めることが求められる。</p> <p>また、地域や企業、研究機関など、学校外の団体などとも連携し、社会で活躍する人（例えば、一流の技術者や研究者など）と触れ合う機会を設けることにより、生徒が学ぶことの意義を感じられるようにすることが重要である。</p> <p>さらに、教員自らが学び続ける意欲や姿勢を、生徒に示し続けることが必要である。</p> <p>加えて、学校間が連携することにより、優れた授業や取組をより多くの生徒が享受できるようにする必要がある。</p> <p>(2) 生徒の多様なニーズに対応する学校</p> <p>文化・スポーツや理数系などの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒の多様なニーズに適切に対応するためには、各高等学校が特色ある教育を更に推進することが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎基本をきちんとつけて、次のステージのときにきちんと活躍できる人間を育てていくことは、大きな使命だろうと思っています。 ●基礎的、基本的知識・技術の習得とこれらを活用して課題解決するための思考力、判断力、表現力などを育成すること、そして、これらのことに主体的に取り組む態度を身に付けるという、生きる力を付けることをやっていくべきだと思う。さらに、それらを身に付けるための土台となる人間性も必要である。 ●国公立を問わず、県内の高校生にきちんとした高度の普通教育なり専門教育を提供するための役割を担うことはやらなければならないこと。 ●自分から勉強しようと思うスイッチが入らないことには、どうしてもいい学びができないような気がする。 ●夢を持って努力すること、粘り強く、意欲的に周りに働きかけていくことが必要だということは、だれも異論がないことで、これから特に必要だろう。 ●すべての生徒にきちっと指導する場面と、頑張ってきたこと、成果を発表する場を高等学校教育の中で、学習活動の中で位置づけることが大事。 ●学校の中だけではなく、社会の組織とかかわるチャンス、場をつくる必要があるのではないか。そうすると、学校とは違った評価の視点があり、社会とかかわった場面で認められたことが、本人の自己肯定感を強くしていくことにつながっていくのではないかと思う。社会との関わりを増やすとよい。 ●自分自身を常に磨き続けて、その姿から子どもたちに何かをつかんでほしいという姿勢を持ち続けている先生がどの程度いるのかと気になる。教師の在り方も大切な部分ではないか。 ●県内の学校同士で優れた教員の講義を聞くとか、子どもたちがタブレットを持って姉妹校との交流や学習をするとか、山間部の小さい学校でも、いい授業が受けられる形で、県内の先生方のいろんな力をもっと生かせることを考えられるとよい。 ●特徴のある高校で、特徴のある授業だったり、特徴のある先生を、関係高校で人材活用というか、やっぱり連携で動いていくというのは、もうなされている部分はあると思うんですが、すごくいいアイデアだと思います。 ●基礎となる力の（B）のほう、社会で活躍できるように身につけるべき力というのは、高等学校側で、ある程度特別な場面や発表の機会を用意するなどの工夫が必要ではないか。そういう意味では、各学校が、地域の実態に合わせて特色づくりをより一層進めていく必要があると思う。 ●中学生が今から、もう既に国際とか、なかなか中学校、15歳でもって自分の進路をある程度見定めるといようなことは、実際にはかなり難しいだろうと思うんです。そういう中で、しかし特長ある学校、そういったものが、私は社会のニーズとしてやっぱり必要なだろうと、そんな思いがする。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p data-bbox="172 121 658 388">このためには、各高等学校が生徒のどのような力を伸ばすのか、どのような生徒を育成するのかについて明確な目標を持ち、それを実現するための有効な取組を実践することが重要である。</p> <p data-bbox="192 590 676 659">(3) 特色ある教育を推進するために留意すること</p> <p data-bbox="172 667 658 976">特色ある教育の推進においては、地域による異なる状況を踏まえるとともに、生徒の個々の状況に柔軟に対応できる体制の整備、家庭や地域との連携などを行う必要がある。また、教員以外の人材活用や学校間の連携など学校の従来の枠組みを越えた仕組みづくりを研究する必要がある。</p>	<p data-bbox="765 121 1893 231">このためには、各高等学校が生徒のどのような力を伸ばすのか、どのような生徒を育成するのかについて明確な目標を持ち、それを実現するための有効な取組を実践することが重要である。</p> <p data-bbox="765 275 1893 426">また、高等学校はそれぞれが目指す目標並びに目標を実現するために取り組む教育内容などの学校の特色について、中学生や保護者などが認知できるよう広報を充実させることにより、義務教育諸学校で行われるキャリア教育との連携を図り、子どもたちが将来の夢の実現に向け適切な高等学校への進路選択が可能となるよう努める必要がある。</p> <p data-bbox="765 432 1893 541">さらに、生徒が自分のやりたいことを見つけ、その実現を目指して高等学校を転学することが真に必要な場合には、他の高等学校への転学ができるように、要件の緩和について、検討する必要がある。</p> <p data-bbox="736 590 1341 621">(3) 特色ある教育を推進するために留意すること</p> <p data-bbox="795 627 1596 659">特色ある教育の推進においては、次のことに留意する必要がある。</p> <ul data-bbox="765 703 1893 1638" style="list-style-type: none"> ・都市部や中山間地域（または島嶼部）など、地域による異なる状況、それぞれの特色を踏まえる。 ・将来の夢や目標を持つ生徒が個々の状況に応じて特色ある教育を受けられるよう、高校3年間を通じて学ぶ中で、柔軟に対応できる体制の整備を行う。 ・進学や就職などの進路の観点だけでなく、豊かな人間性を育む観点から、例えば部活動について教育課程との関連を図ることや学校行事などにおける家庭や地域の人々との連携、社会教育施設などの活用などの工夫（特色づくり）も行う。 ・各学校が特色ある教育を進める上で、必要となる人的・物的資源の有効活用として、教員以外の人材の活用や、学校間の連携など学校の従来の枠組みを越えた仕組みづくりを研究する。 	<p data-bbox="1929 121 2902 388">●国策としてのカリキュラムや指導法の研究開発などを行うSSHのような理数教育、科学技術教育に力を入れていくものと、文化・スポーツと同じように、それぞれの学校の人材育成目標に沿った形での特色教育として、理科や数学などに力を入れて教育をするといったものは大いにありだと思ふ。</p> <p data-bbox="1929 275 2902 384">●普通科もいいし、特別なスペシャリストになれるような、特化した高校にも魅力を感じるけれども、その辺の宣伝というか、広報が、まだまだ十分ではないのではないか。</p> <p data-bbox="1929 432 2902 583">●入学したらどうも違うとなったときに、その学校で拾い切れないような場合があると思う。その場合に、公立、県立の学校として転校が、もう少しフレキシブルにできたら、子どもたちも安心して進めるのではないかと。全体のシステムとして、そういうことが検討してみる必要があるのではないかと。</p> <p data-bbox="1929 703 2902 854">●思い切っているような特色ある学科を都市部ではどんどんやってもいいのではないかと。スポーツとか芸術とかは、単独校を作るぐらいの気持ちがあってもいいのではないかと。私立学校も国立もあるわけですし。中山間地域と都市部と高校には、それぞれのやり方があるという考え方で進めていくべきだと思ふ。</p> <p data-bbox="1929 861 2902 930">●そういう高等学校の特色づくりの中に、いかに地域の特性とといいますか、それを結びつけていくか、そこが大事なのではないかと。</p> <p data-bbox="1929 936 2902 1005">●文化・スポーツにしても、あるいは理数系の子どもたちにしても、高等学校の3年間で、その子の資質を見つけるチャンスがあればいいんじゃないかと。</p> <p data-bbox="1929 1012 2902 1163">●都市部から地域までたくさんの高等学校が、そこで教えて鍛えているうちに、例えば、自分が理数系として伸びるといふ、そういう資質に目覚めた者がそれぞれ進めるような、そういうチャンスを持てれば、私は、高等学校として、それで用をなすんじゃないかと。</p> <p data-bbox="1929 1169 2902 1239">●特色のある、さまざまな力をつける学校っていうのに加えて、人間を育てる、社会へ出る一歩前の大切な橋渡しをする教育の機関であってほしい。</p> <p data-bbox="1929 1245 2902 1354">●特色を出す場面を考えたときに、各科ごとに、その学科の中で特色を出していくということだが、もう一つの視点として、課外の、学校行事等の中に特色を出していくということがあるのではないかと。</p> <p data-bbox="1929 1360 2902 1512">●県内高校でも連携の仕方、幾つかの複数高校などと取り組みされているはずなんですけれども、そういう面で、サークルにしても、クラブにしても、理数にしても、県内の有効な資産、人材を生かせるようなことを、まずは考えられなければならない。</p> <p data-bbox="1929 1518 2902 1587">●OBでもすばらしい人がいたら、だれでも活用すればいいと思う。学校の先生だけがやる必要ない。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>2 求められる高等学校の方向性 (1) 基礎基本の重視 全ての高等学校で、大学などへ進学したり、社会に出て、より高い専門性を身に付けたりするための基礎として、知徳体を総合的にバランスよく高める教育を行う必要がある。</p> <p>(2) 特色ある高等学校 本県において、今後検討すべきと思われる「特色のある高等学校」は次のとおりである。 ア 中高一貫教育校 広島中・高等学校における成果を踏まえ、中山間地域も含め、県内の他の地域から併設型中高一貫教育校の設置を求める声がある。 また、中山間地域において連携型中高一貫教育を実施している学校が一定の成果を上げており、他の地域において、設置を求める動きがある。 中高一貫教育校の新たな設置については、県内各地域の実情などを踏まえ、これまでの取組や成果を生かしながら、検討する必要がある。</p>	<p>2 求められる高等学校の方向性 (1) 基礎基本の重視 全ての高等学校で、大学などへ進学したり、社会に出て、より高い専門性を身に付けたりするための基礎として、知徳体を総合的にバランスよく高める教育を行う必要がある。</p> <p>(2) 特色のある高等学校 本県において、今後検討すべきと思われる「特色のある高等学校」は次のとおりである。</p> <p>ア 中高一貫教育校 中高一貫教育校については、平成16年度に開校した併設型の中高一貫教育校である県立広島中・高等学校が中期目標として掲げたグローバル化に対応した教育への満足度、生徒の授業満足度、難関国立大学などの合格者数の目標を概ね達成するなど生徒、保護者の期待に込めている。 こうした広島中・高等学校における成果を踏まえ、中山間地域も含め、県内の他の地域から併設型中高一貫教育校の設置を求める声がある。</p> <p>また県内には、中山間地域において設置者の異なる市町立中学校と県立高等学校が緩やかな一貫教育を行う連携型の中高一貫教育を実施している学校が複数校あり、それぞれが地域の特徴を生かした取組により、一定の成果をあげており、県内の他の地域において、設置を求める動きがある。</p> <p>中高一貫教育校の新たな設置については、県内各地域の実情などを踏まえ、これまでの取組や成果を生かしながら、検討する必要がある。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">中高一貫教育校の設置については、次のような意見もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育の導入時に、国会の附帯決議において、受験エリート校化など、偏差値による学校間格差を助長することのないよう十分配慮することや、中学校からの入学者選抜に当たって学力検査を行わないようにし、受験競争の低年齢化を招くことのないよう十分配慮することとされた趣旨を尊重しなければならない。 ・新たに併設型中高一貫教育校を設置する際には、私学との役割分担や、財政的な事情を考えると、広島中・高等学校のように新たに学校をつくるのではなく、既存の高等学校や中学校をベースにして設置することを検討する必要がある。 ・中山間地域や島嶼部においては、地域の自然や芸能・文化を生かした取組を併設型中高一貫教育で実施するなど、進学実績を重視するのではなく、地域の特色を生かした併設型中高一貫教育校もあってよいと考える。 	<p>●基礎基本をきちんとつけて、次のステージのときにきちんと活躍できる人間を育てていくことは、大きな使命だろうと思っています。1つは、「生徒のバランスの取れた知徳体」という言葉がありますけれども、知の中であっても、いろんなバランスがあるだろうと。それをやっぱり見つけていく。もう一つは、やはりいろんな環境の変化をこれから非常に激しくなったりしますけれども、そういう環境の変化に対してきちんと対応できる力をつけるんだという2つをですね、実は、前回、私はお話をしたつもりであります。</p> <p>●東広島の県立広島中・高等学校、これが一定の期待された成果を上げているということもあって、県下の他の地域からも、この中高一貫教育校の設置を求める声が非常に高まっている。</p> <p>●公立学校が中高一貫校を設置してもいいという法律が、平成10年に決定をされ、その附帯決議に、いわゆるエリート校をつくってはいけない、受験勉強の低年齢化をさせてはいけない、学力試験を課してはいけないといったものが出てきている。しかしながら現実を考えると、大変これは厳しい、いわゆるエリート校であろうし、受験勉強の低年齢化も招いているし、学力試験であろう試験を課しておられるのではないかと思っている。</p> <p>●（併設型中高一貫教育校の設置について、）私学とのすみ分けもあるし、特色を考えたときに、1校だからできること、これがそこらじゅうに新設校のようにできれば、県の財政もいろいろお金もかかるだろう。今ある高校をリニューアルする形、あるいは併設の中高、近隣の学校との中高一貫的な連携教育、中高連携とか、今あるものをベースにつくるべきではないか。</p> <p>●中山間地域や島嶼部におけるその地域の特性を生かした、例えば産業に関わったりとか自然、あるいは芸能・文化に特化し、6年間ゆったりと学べるような中・高一貫教育もあってよい。必ずしも難関大学を目指すことだけが人生ではない。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>イ 定時制・通信制 様々な事情や背景を持ちながら定時制・通信制課程に在籍している生徒の持っている可能性を引き出し、能力を伸ばすことが求められている。 定時制課程の多くが、全日制課程に1学級が併置されているという状況を改善し、定時制課程と通信制課程を併せ持った高等学校の設置を検討する必要がある。</p> <p>ウ 専門高校・専門学科 専門高校・専門学科は、これまで幅広い分野で産業、社会を支える人材を輩出しており、今後もその役割を果たすことが期待される。 このため、専門高校・専門学科においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の基礎的・基本的な知識、技術、技能の定着を図る教育を行うこと ・それぞれの専門分野だけでなく、他の学科などとの関連にも配慮し、幅広い知識、技術を身に付けさせる教育を行うこと ・ものづくりへの興味と意欲、技能や製品に対する厳しさと自信、飽くなき向上心を身に付けさせる教育を行うこと ・職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養にも配慮した教育を行うこと ・産業構造の変化、科学技術の進歩などの情勢の変化に対応した教育を行うことが重要である。 <p>また、農業科、工業科など農産物や製品などの「ものづくり」を学ぶ学科においては、ものを生産製造する技術、技能を身に付けさせる教育に加え、売れる商品を開</p>	<p>イ 定時制・通信制 高等学校の生徒数が減少する中で、定時制及び通信制に通う生徒の割合はむしろ上昇しており、その在籍者数全体では5,500人を超えている（平成24年度公立学校基本数調査）。 定時制及び通信制課程には、従来のような勤労青少年だけでなく、中学校時代に不登校傾向のあった生徒、高等学校を退学して再び高等学校で学び直そうとする生徒など、様々な事情や背景を持った生徒が入学しており、こうした生徒の持っている可能性を引き出し、能力を伸ばすことが求められている。</p> <p>現在の定時制課程の多くは、全日制課程の高等学校に定時制課程1学級が併置され、また夜間部の設置が多いという状況になっており、こうした状況を改善し、「県立高等学校再編整備計画」に掲げられている定時制課程と通信制課程を併せ持った高等学校を設置することを、引き続き検討する必要がある。</p> <p>ウ 専門高校・専門学科 専門高校・専門学科は、これまで幅広い分野で産業、社会を支える人材を輩出しており、今後もその役割を果たすことが期待される。</p> <p>このため、専門高校・専門学科においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の基礎的・基本的な知識、技術、技能の定着を図る教育を行うこと ・それぞれの専門分野だけでなく、他の学科などとの関連にも配慮し、幅広い知識、技術を身に付けさせる教育を行うこと ・ものづくりへの興味と意欲、技能や製品に対する厳しさと自信、飽くなき向上心を身に付けさせる教育を行うこと ・職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養にも配慮した教育を行うこと ・産業構造の変化、科学技術の進歩などの情勢の変化に対応した教育を行うことが重要である。 <p>また、農業科、工業科など農産物や製品などの「ものづくり」を学ぶ学科においては、ものを生産製造する技術、技能を身に付けさせる教育に加え、売れる商品を開</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>専門高校・専門学科の各学科の取組について、委員から出された意見は次のとおりであった。</p> </div> <p>（農業科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来のスペシャリストとなるためには、農業生産の基礎基本だけでなく、気象学、地質学、生物の生態系、土木建築、電気、水道などの幅広い知識、技術が必要である。 ・日本の農業だけでなく、外国に出て行って世界の農業を学んで欲しい。 	<p>●本県の公立の定時制・通信制課程には、現在、約5,000名ぐらいの生徒が学んでいる。本県全体の生徒数が大きく減少している中で、この定時制・通信制に学ぶ生徒の数はほとんど変わらず、割合的には増えていると言っても過言ではない。困難なところも多くあるが、そういった生徒もまた、可能性を持っている。その可能性を引き出して能力を伸ばしてやることも、本県の高等学校教育の大きな使命であると思う。</p> <p>●マーケティング能力というものなんですけれども、例えばここに書かれている農業を担う人材にしても、ものづくりのスペシャリストにしても、水産業を担う人材にしても、特にものづくりのスペシャリストには必要となっていること。・・・6次産業の推進ということも含め、商品開発をしていく、要は物を加工して商品を作っていくって、儲かる農業、水産業にするということが非常に重要だと思う。</p> <p>●農業をやるというのは、ものを育てるだけじゃなくて、頭の中に、気象学、地質学、そして生物のいろんな生態系、そんなものを全部マスターしないと、仕事のうちでは土木も建設業にもならなきゃ、大工さんもやらなきゃ、水道もやらなきゃいけない、電気工事もしなきゃ、全部マスターしなきゃいけないんですよ。そういういろんなことができる人間でないと伸びてこない。</p> <p>●農業高校に対して望むのは、やはり基本基礎、これをばっちり教え込んでもらいたい。若い人には、外国の農業がどうなっているか、本当学んでほしい。大きな農場で1カ月間働かすんですよ。そうすると考え方が変わってくる。若い人に外国の農業がどうなっているのかということを学んでほしい。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>発する能力を育成するため、マーケティングに関する基礎的な知識と技術を身に付けさせることも重要である。</p> <p>エ その他 本県の抱える課題等に対応した様々な人材を育成する観点から、高等学校が果たすべき役割等について、今後も検討し、その際、海外の大学への進学を目指す学校や職場体験を重視した学校の設置など、従来の高等学校や学科の枠に捉われない人材育成の在り方について、今後も引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(3) コアを重視しつつ、コース制等により特定の機能を強化する高等学校 普通科においては、基礎的な教養をしっかりと学びつつ、コースや類型を設けて、芸術など特定の分野を特化して学ぶことができる高等学校あるいは、普通科と他の学科が併設され、学科間で連携することにより、多様な学びを提供できる高等学校などについても検討するべきである。</p>	<p>(工業科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業高校では、職人気質、職人魂といったものづくりの心を持った人材を育てて欲しい。 ものづくりの心を深めるためには、早いうちから世界レベルの技に触れることが必要であり、そのためには企業と高等学校の連携が重要となる。 企業と高等学校の連携については、インターンシップを充実することや、ドイツで実施されているデュアルシステム（現場と学校を行き来しながら学ぶ職業教育）の導入なども検討するべきである。 <p>※商業科等、他の専門学科・・・インタビュー結果等を踏まえて記載する。</p> <p>エ その他 例えば、中山間地域における医療を支える医師や学校教育を支える質の高い教員の育成など、本県の抱える課題等に対応した様々な人材を育成する観点から、高等学校が果たすべき役割等について、今後も検討していく必要がある。</p> <p>その際、他県や諸外国の取組も参考にしつつ、海外の大学への進学を目指す学校や職場体験を重視した学校の設置など、従来の高等学校や学科の枠に捉われない人材育成の在り方についても、検討していく必要がある。</p> <p>(3) コアを重視しつつ、コース制等により特定の機能を強化する高等学校 普通科においては、基礎的な教養をしっかりと学びつつ、コースや類型を設けて、芸術など特定の分野を特化して学ぶことができる高等学校あるいは、普通科と他の学科が併設され、授業などにおいて学科間で連携することにより、多様な学びを提供できる高等学校などについても検討するべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の強みを守り切るために、工業高校にはものづくりの力、ものづくりの心を持った人材を育ててもらいたい。ものづくりの心とは、言い換えれば職人気質、職人魂。 ●工業高校ではものづくりの楽しさや難しさを学び、それを究めていこうという気概を育ててもらいたい。そのためには、早いうちからの世界レベルの技能、匠の技に触れさせることも必要なのではないか。 ●メキシコのある工業高校では卒業前の4カ月から6カ月間、必ず企業での実習を義務づけ、その期間は仕事だけをやる。学校での学習の目的が就労というものにあるということを明確にし、かつ、そのまま実習先に就職する子どももいる。このままそれが取り入れられるかどうかは別として、高校教育に対する産学連携の一つの形ということで、非常に参考になった。 ●外国でも、世界と渡り合う人材であったり、地域の会社でもって、世界を意識しながら、例えば新しい技術が入るときには、それをきちっと調べて使いこなしていける人材。そして地域においては、老人らの介護とか、小さい子どもたちの子育て支援とか、そういった優しさを持って対応できる子どもを育てることが、いつでも、どこでも、どんな状況でもというようになるのではないかなということで、実は多様性が大切なのかなというように思います。 ●海外への直接留学が可能なコースを設ける。医療や介護サービスのいっそうの充実が社会的にも要請される。 ●普通科であっても、いろんな学科が併設している、例えば普通科と体育科と衛生看護科とか、がある。その中で、部活とか学校行事等は一緒にやっていて、非常にさまざまな、やはり看護師になることを目標にしている人たちと出会えば、普通科の子たちも非常に刺激を受けたりとかというのもあるって、・・・非常にいい影響があるなと思っています。ただ、まだまだ、授業内容とかいうところで何か連携しているところまではまだいってないような気もしていて、そういう学校内でいろんな科を持っているところで、連携し合って、相乗効果を与えるようなことができないか。 ●メキシコのある工業高校では卒業前の4カ月から6カ月間、必ず企業での実習を義務づけ、その期間は仕事だけをやる。学校での学習の目的が就労というものにあるということを明確にし、かつ、そのまま実習先に就職する子どももいる。このままそれが取り入れられるかどうかは別として、高校教育に対する産学連携の一つの形ということで、非常に参考になった。 ●コアの部分はみんな共通してしっかりとやって、ピーク制というのか、コース制というのか、ここの部分で、上で乗っけて特長を打ち出すというような、そういう学校も当然あっていい。 ●（高校の部活の）吹奏楽は、そこで一度燃え尽きているところがある。高校教育の中では、芸術を極めることの大切さを伝えるような、もう一つ別な芸術観を高校生に伝えないといけない。その際にも、決して基礎的な教養は外さないでいただきたい。芸術に特化するいろんな育て方があったとしても、基礎基本はしっかりと身につけて、プラスアルファで芸術を学ぶことによって、コミュニケーション能力や、人間関係等、社会人基礎能力が身に付く。普通科でもいろんな選択肢の可能性があるので、非常にいいこと。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>(4) 生徒が夢や意欲を持つための取組</p> <p>生徒が夢を持ち、その実現に向かって意欲的に学ぶ態度を育むための取組を、各学校が工夫して実施することが重要である。各学校において、それぞれが育成する生徒像の目標に応じて、こうした取組が積極的に企画され、生徒一人一人が将来の夢を育み、学ぶ意欲を高める環境の充実に努める必要がある。</p> <p>(5) 特色づくりを進める上での留意事項</p> <p>県内の高等学校教育において、特色ある教育づくりを進める上で、必要となる人的・物的資源の有効活用に関する仕組みづくり等を研究する必要がある。</p>	<p>(4) 生徒が夢や意欲を持つための取組</p> <p>生徒が夢を持ち、その実現に向かって意欲的に学ぶ態度を育むための取組を、各学校が工夫して実施することが重要である。例えば、生徒が各分野で活躍する一流の人から話を聞いたり、一流の技に直接触れたりすることにより、高等学校で学ぶことの意義を自ら見つけるなどが期待できる。各学校において、それぞれが育成する生徒像の目標に応じて、こうした取組が積極的に企画され、生徒一人一人が将来の夢を育み、学ぶ意欲を高める環境の充実に努める必要がある。</p> <p>(5) 特色づくりを進める上での留意事項</p> <p>県内の高等学校教育において、特色ある教育づくりを進める上で、必要となる人的・物的資源の有効活用に関する仕組みづくりなどを研究する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会で活躍する人（例えば一流の技術者や研究者など）と接することができるように企業や研究機関など、学校外の団体との連携 ・ 優れた授業や取組をより多くの生徒が享受することが可能となる学校間の連携 ・ 海外の姉妹校に加え、県内の学校同士で行う学校間の交流などにおけるICT（情報通信技術）の活用に関する研究 ・ 生徒が自分のやりたいことを見つけ、その実現目指して高等学校を転校することが真に必要な場合には、他の高等学校へ移れるように転学要件の緩和 ・ 各学科の中での特色だけでなく、例えば学校行事などの中で特色づくり 	<p>●普通科であっても、いろんな学科が併設している、例えば普通科と体育科と衛生看護科とか、がある。その中で、部活とか学校行事等は一緒にやっていて、非常にさまざまな、やはり看護師になることを目標にしている人たちと出会えば、普通科の子たちも非常に刺激を受けたりとかというのあって、・・・非常にいい影響があるなどと思っています。ただ、まだまだ、授業内容とかいうところで何か連携しているというところまではまだいってないような気もしていて、そういう学校内でいろんな科を持っているところで、連携し合って、相乗効果を与えるようなことができないか。</p> <p>●人格力であったり、意欲であったり、取り組む力、あるいは粘り強さ、体制、タフに取り組んでいくという、そういう姿勢をどうやってつくっていかばいいのかという、そのあたりの手がかりが、先ほどの御発言のように、本物、あるいは一流のものと接すること。高校の学内に限らずに、学校内に限らずに、外での接触、あるいは社会、実社会、企業、そういったところと色々なパイプを持って、学ぶことの意味づけを少しでも生徒たちが感じられるようにしてやること、そんな御意見があった。</p> <p>●県内高校でも連携の仕方、幾つかの複数高校などと取り組みされているはずなんですけれども、そういう面で、サークルにしても、クラブにしても、理数にしても、県内の有効な資産、人材を生かせるようなことを、まずは考えられなければならない。</p> <p>●本物、あるいは一流のものと接すること。高校の学内に限らずに、学校内に限らずに、外での接触、あるいは社会、実社会、企業、そういったところと色々なパイプを持って、学ぶことの意味づけを少しでも生徒たちが感じられるようにしてやること、そんな御意見があった。</p> <p>●緩やかな学校間連携を組んで、ある高校ではこれができる、またある高校ではこんなことができますとか、教員も互いにやりとりしながら、いい授業だったり、いい指導だったり共有できるような仕組みを、その地区、ブロックの中で考えていく必要があるのではないか。</p> <p>●例えばICTをもっと利用して、姉妹校とWEBの講義をやるとかという話もあったが、むしろ県内の学校同士で、子どもたちにタブレットを持たせて、他校の教員の講義を聞くとかを、先々の話になるのかもしれないが、小さい山間部の学校でやると、いい授業が受けられるとか、そうやって県内の先生方のいろんな力をもっと生かせるようなことを考えられるといいのではないか。</p> <p>●公私を含めると、難しいところもあるのかもしれないが、少なくとも公立学校の間で、緩やかな学校間連携を組んで、ある高校ではこれができる、またある高校ではこんなことができますとか、教員も互いにやりとりしながら、いい授業だったり、いい指導だったり共有できるような仕組みを、その地区、ブロックの中で考えていく必要があるのではないか。</p> <p>●課外の、学校行事等ですね、そんな中に特色を出していくということがあるのではないかと思う。</p>

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
<p>3 国・公・私立高等学校の役割</p> <p>国立高校，私立高校，公立高校が協力又は補完しあいながら，広島県全体の高等学校の教育を推進し，教育水準の維持向上を図らなければならない。</p> <p>また，併せて，本県の高等学校教育の在り方を考えるとき，国・公・私立高校は，補い合うとともに，同じ公教育を担うという立場から，互いに切磋琢磨し，広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められている。</p> <p>なお，特色のある学校・学科の中には，生徒のニーズが低いために定員に満たない恐れのある学校・学科があるものの，本県の将来を見据えたときに，社会的なニーズが高いと考えられる学校・学科については，国立又は公立の高等学校において設置することを検討する必要がある。</p>	<p>3 国・公・私立高等学校の役割</p> <p>(1) 国立高等学校の役割</p> <p>国立大学附属学校は，「教育実習」と「教育研究」という二つの大きな役割を担っている。教育実習については，附属高等学校をはじめとする中等教育段階の実習のほか，広島大学附属学校園全体として，附属幼稚園や附属小学校における教育実習など，多様な教育実習が行われている。</p> <p>また，教育研究については，とりわけ教育実践に根ざした研究活動を推進している。</p> <p>(2) 私立高等学校の役割</p> <p>私立高等学校は，スポーツを通じて人間教育を行う学校，宗教に基づいた道德教育を行う学校など，各学校が建学の精神に基づく特色教育を推進しており，都市部を中心に，生徒数において本県高等学校教育の約3割を占め，公教育の一翼を担っている。</p> <p>(3) 公立高等学校の役割</p> <p>公立高等学校は，高等学校の教育の普及及び機会均などを確保する観点から，広く県民のニーズに応えつつ，全県的な視野に立って教育を提供している。</p> <p>国立高等学校，私立高等学校及び公立高等学校は，協力又は補完しあいながら，広島県全体の高等学校教育を推進していかなければならない。</p> <p>また，併せて，本県の高等学校教育の在り方を考えるとき，国・公・私立高等学校は，補い合うとともに，同じ公教育を担うという立場から，互いに切磋琢磨し，広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められている。</p> <p>なお，特色のある学校・学科の中には，生徒のニーズが低いために定員に満たない恐れのある学校・学科があるものの，本県の将来を見据えたときに，社会的なニーズが高いと考えられる学校・学科については，国立又は公立の高等学校において設置することを検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●何も教育実習は国立大学だけでしかできないものではないわけですが，ただ，使命として，教育実習を非常に重要なミッションにしていますから，母校実習の場合の温度差が従前から課題として指摘されております。そういう意味では，質保証という観点で，いわゆる教育実習に国立大学の附属は最低限の質をとにかくしっかり保証するという意味では，責任を持って教育実習をやっている。 ●例えば1つ。公立学校でも開発たくさん受けるではないですか，研究開発指定。あれ結局，国が指定して，カリキュラムの開発をさせるわけでしょ。本来であれば国立大学の特権みたいなもんですよ。附属高校の。しかしながら，公立の国立化というふうな言い方で揶揄られることがあるけれども，実際は国立大学の附属の専売特許のようなものなわけです。 ●生徒数，学校数でいいますと約3割，広島県の高等学校の3割を私学が担っております。それから，私立学校ですけれども，もう御存じのとおりなんですけれども，私立学校は，それぞれの学校の独自の教育理念で特色教育を推進する，こういったものでございます。例えば，宗教に基づいた道德教育を推進する学校，スポーツを通して人間教育を応援していく学校，中高一貫校，そういったさまざまな独自の教育理念でもってそれぞれの特色教育を推進しているのが私立学校でございます。 ●公立高校の役割と申しますか，そういったものは教育の普及及び機会均等であるというお話をさせていただきました。これがこの公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律に定められております。 ●大阪が公立，私学，競争させて，特徴を打ち出せと。公立でも定員割れしたら，もう次ないでっていうような世界。そういう行政のあり方，高校教育のあり方が一体どうなのかっていうような。互いに補い合っているような調和的なところばかりでもないというのはありますよね。 ●会長さんの言葉の中に，国立大学の附属と私立の高校と，あるいは公立のそれと，予定調和ですみ分け。これは今の世界的な教育改革の動向の中で，果たしてあり得るのでしょうか。私は，大阪市，大阪府の新自由主義に特化した今の教育行政のスタイルは，必ずしも首肯しませんが，その世界的な動向は無視しがたいと思います。したがって，広島県においても，公立学校と，私立学校と，国立大学の附属高校と，もちろん，すべてイコールとは言いませんけれども，かなりの部分で重なるだろうと思います。そして，それは結果的に競合すると思います。競合すべきだと思います。競争することによって質を上げるという今の改革動向は無視できません。 ●私は，そういう意味では，予定調和論はわかるけれども，現実問題としては，それぞれの学校が切磋琢磨をする。公立も国立も私立も切磋琢磨をするというのが，現実的にはやっぱりあるべき姿，私に言わせるとそれが理想的な姿に近いんじゃないのかなと，今の改革動向を見てそう思います。 ●水産科を仮につくるとすれば公立が，場合によっては国立がつくるしかないと思います。それが社会的なニーズであり，あるいは今，刹那的に子どもたちのニーズがなくても，社会の発展とか，将来展望を考えたときに，絶対必要だというふうに県の教育行政機関が考えるんだしたら，置くべきだと思います。

目次（要旨）	記載内容	協議内容（委員の意見のうち主なもの）
	<p>また、私立高等学校については、各校が建学の精神に基づく教育を行い、県内の高等学校の特色ある教育を牽引するなど、本県において求められる高等学校教育に果たす役割は大きいですが、国・公立高等学校と比べ、保護者の学納金の負担が大きいため、同じ土俵での競争ができないという指摘がある。</p> <p>一方で、家庭における経済状況の格差が広がっている現状においては、保護者の負担の少ない公立高等学校の役割は、都市部、中山間地域・島嶼部にかかわらず大きい。</p> <p>保護者の負担を考慮すると、公・私立高等学校の生徒の受入れ比率を調整するよりも、例えば私立高等学校に対する補助金を増やすなど、公立高等学校高校と私立高等学校が同じ条件で競争できる環境を整えることが望ましいという意見もあった。</p> <p>おわりに</p> <p>本検討協議会においては、これまでの6回わたる会議の協議内容を、この度中間まとめとして報告したところである。</p> <p>今後、「県立高等学校の配置の方向性」について引き続き検討を行い、これまでの協議内容と合わせて本県の高等学校教育の在り方について、その方向性を答申として取りまとめて参りたい。</p>	<p>●少なくとも1つの私学という意味ではなくて、広島県内の私学すべて合わせますと、十分人材育成ができていないかと思っております。この十分と申すのは、量ではなくて、質という意味での十分という意味です。御存じのように、私立学校は建学の精神に基づく特色教育を推進するというのがミッションでございます。そのミッションはそれぞれの学校違いますけれども、それぞれ特徴を出して、特色を出して教育を推進しております。そういった意味では、広島が今後求める高等学校教育に対しては、十分期待にこたえているのではないかと私は思っております。</p> <p>●なぜ私立学校の定員充足が約1割切っているのかというところを、私立学校の立場から考えたところが学納金でございます。御存じのように、国・公立学校の学納金と私立学校の学納金には大きな差がございます。学納金というスタートラインが違う。だから同じ土俵での競争ができていないということでございます。</p> <p>●多様なニーズに基づいた学校ということで、やはり公立高校の授業料が非常に軽減されてるということは非常にありがたいことで、特に今、厳しい家庭も多い中で、例えば学校外の育ちにおける経済格差というもの、やはりその子にとって非常に大きな障害になっているということもありますから、そういう意味で、せめて学校ぐらいは何とか軽減した形で、全ての子どもたちが行けるような、そういう条件というのをやはり広げていただきたいなというふうに思いますので、そういう意味では、都市部は、私立にというよりは、都市部であっても、やはり公立高校の役割というのは非常に、特に公立高校頑張るって、やはり特色ある学校づくりで頑張ってる状況を、さらに推進・発展させていただきたいなということを強く思います。</p> <p>●私立高校についても、特色ある学校ということで、それを県内で牽引していくという意味では、果たしていただく役割というのは非常に大事だなというふうには受けとめつつ、やはり重複部分というのがあるとなれば、比率ということよりは、むしろ、ゼロというところにはいかないまでも、私立高校に対する補助というんですか、そういうものをやはり広げていくことで、ある程度、競争のベースが違うのであれば、そういう方向で解決していただきたいなというふうに思っております。</p>